

地球科学輻合ゼミナール

(2013年度 前期 第8回)のご案内

海洋表層の流れと混合・流れを 計測し、混合を推測する

吉川 裕

京都大学 大学院 理学研究科地球物理学教室

海流は様々な物質や熱を輸送し、地球環境や気候システムに重要な役割を果たす。しかしその海流を、十分な精度で広範囲に計測するのは容易ではない。特に沿岸域は、外洋域に比べ海流の時空間変動が激しいため、かつての係留観測や船舶観測のような「点・線」の観測では、その実像のほんの一部しか捉えることができない。

近年、沿岸域の海流を「面」で計測する測器として、海洋レーダの導入が進んでいる。このレーダによる海流データを解析したところ、沿岸域の海流の変動の様子だけでなく、外洋における大気海洋相互作用にも重要な鉛直混合に関する（一見）不思議な様子が見えてきた。

本講演では、海洋レーダによる海流観測と対馬海峡で計測された海流変動の様子を紹介し、これらの計測から見えてきた（沿岸・外洋を問わない）海洋表層での鉛直混合、そして数値実験で推測したその変動の仕組みについて、詳述する。

6月26日(水) 午後4:30~午後6:00

場所：理学研究科6号館 303号室